

令和5年度 宍粟・佐用地区合同部会
(障害児計画相談に関する連絡会・療育に関する情報交換会・市町部会)

開催日時	令和5年10月10日(火) 10:00～11:45
開催場所	佐用町役場
出席者	障害児計画相談に関する連絡会9名、療育に関する情報交換会8名、市町部会5名
議事	<p>全体司会：佐用町</p> <p>【開会】 堤主任より挨拶</p> <p>【事業所紹介】 堤主任より資料1・2に沿って報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回初参加「親子のがっこう」(児発、放デイ、訪問)の紹介 ・今年度新たに通所4事業所が開設(相生市1、たつの市1、太子町2) ・「はりま自立の家(宍粟市)」がR5.9末で児発・放デイを廃止 <p>【障害児に関する計画相談について】 濱本 Co より資料3・4に沿って西播磨圏域障害児計画相談の状況を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員人数と常勤換算の比較 ⇒兼務、非常勤配置が多数あり ・支援現場の人材確保が難しい ⇒相談員の兼務の原因 ・児相談支援は、本人以外との兼ね合いが必要 ⇒者相談支援に比べても調整が難しい <p>【情報交換(30分×2部)】 <第1部 支援の難しい児や家族への対応について></p> <p><u>○1 グループ：小学校との連携について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親・学校間の説明や連携が難しく、結果的に市外に出られた事例あり ・児の個人情報共有に関する協定を結ぶなど、密な情報共有が望ましい ・学校からの情報発信が強化されれば支援につながる <p><u>○2 グループ：他利用者への暴力・性的な問題への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為を起こす前に、きざしが見えた段階で専門機関につなげられることが望ましい <p><u>○3 グループ：小学校との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・事業所・親と情報を共有できる場の設定が必要 <p><u>○4 グループ：利用者(自閉症)の放デイ内での問題行動について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者(小6、自閉症)の他利用者への問題行動が目立ち、事業所として対応困難 ・事業所ができることは、児の性格分析、施設の見直し ・必要に応じて、相談できる機関(ブランチ)との連携や、学校へのヒアリング(普段の過ごし方・どう対応しているのか)が有効になるかも

○5グループ：①個々のケースへの対応

- ・利用者が増加し、一人一人のケースを十分に考えられない現状
- ・きめ細かく見直すことで、多職種の介入につながり、きめ細かいサービスが可能になる

○2一人で衣服着脱ができる児への対応

- ・親の教育のもと、一人で着脱できるようになった児（女の子）が、どこでも服を脱ぐようになった
- ・できることが増えた反面、どこでも行なってしまうデメリットもある
⇒家族へのアドバイス、教育の進め方が難しい

<第2部 療育の支援体制を整える上で必要なこと>

○1グループ：協議の場、人材確保

- ・園→小の引継時に、担当者会議だけでなく事業所からも書面引継を行なう
⇒先生との情報共有になり、引継がよりスムーズに
- ・会議、研修会等への参加により、顔の見える関係づくりを進める

○2グループ：人材確保

- ・まずは研修会やセミナー、個別連絡会への参加等による顔つなぎが大事
- ・コロナ以降、オンライン会議が増えたが、対面でのメリットもある
- ・職員の高齢化、パート職員の増加
⇒職員のモチベーションの維持が難しい

○3グループ：人材確保

- ・佐用町では放デイが足りていない
⇒A 事業所：R6～者の日中一時を児も利用できるよう試行錯誤中
- ・宍粟市では、市単独事業として放デイ実施（はりま自立の家で受入）
- ・R5. 11月～宍粟市事業所連絡会スタート（事業所主体、市は参加のみ）

○4グループ：人材育成・確保

- ・研修に参加し、他の事業所を知る機会が大事
- ・職員の高齢化が進み、サービス維持が難しい

○5グループ：新規がサービスにつながるまでに時間がかかる問題

- ・受給者証の発行等に時間を要し、すぐにサービス利用につなげられないケースあり
- ・事業者・市町間の相談や連携体制が重要

【その他（参加者からの要望）】

- ・保育園等の先生に療育を知ってもらえる機会が欲しい
- ・長期休暇等の先生が動きやすい時期に研修会を開催する等、地域の療育現場の実情が分かることでより一層連携や支援体制が整う
- ・地域ごとの専門員数等、詳細なデータ分析ができれば
- ・正確な数値の見える化により、人材不足問題の把握につながるのでは

【閉会】

堤主任より挨拶